

## 2020年度 学校自己評価表

Osaka YMCA International School

2020年11月

### I 学校教育目標

- 1、本校は、英語を教育言語とする国際教育の必要性を有する生徒たちに、家庭と連携して適切な教育を提供するものである。
- 2、本校は、グローバルな視野を育むための包括的な教育課程を提供する。  
また、生徒たちが、教育活動において意欲的であることと、自らの学びと行動に対して責任意識を持つことを目標とする。

### II 重点目標

- 1、国際バカロレア機関のIB-MYP（7-10年生）、DP（11、12年生）候補校としてスムーズな認証のために十分な準備をする。また、幼稚部・小学部のIB・PYPカリキュラムの実施状況を精査・改善する。
- 2、生徒支援一般、また特別な生徒対応を充実させる。
- 3、IB校として、より望ましい教育効果を上げるための教育環境・施設・機器／設備の充実を進める。
- 4、保護者とのコミュニケーションを密にしながら支持・支援をつなぐことと併せ、広汎かつ効果的な学校広報の確立をはかる。
- 5、感染予防（特に新型コロナ）のための包括的対応を徹底しながら教育活動を実施する。

### III 個別目標と評価

※ 評価基準 1 = 不十分 2 = 部分達成 3 = 達成

領域	評価項目	評価	達成状況	今後の改善
カリキュラム ・学習指導	・ 中等部・高等部の IB・MYP, DP 正式認証申請、そのための準備	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2020年8月にIB・DP正式候補校としての高等部を開講でき、9月の予備訪問を問題なく終えた。</li> <li>・ 2021年8月を目途に中等部をIB・MYPとするため、候補校として正式認証のための準備が出来た。</li> <li>・ Western Japan Activities Association (WJAA)加盟の他インター校とのスポーツ交流クラブを更に充実させた。</li> </ul>	・ 幼稚部から12年生（高等部3年生）までの全課程を提供する魅力的なIB校作りのため、DP, およびMYPの正式認証を取得する。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高指導体制の確立と高等部の施設を完成すること</li> <li>・初等部・中等部・高等部のカリキュラム内容・評価の充実</li> <li>・春に予定されている IB-PYP (幼稚園・初等部) の確認訪問を成功裏に終える</li> <li>・必要時のオンライン授業の提供</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MYP および DP (中等部・高等部) 要員として新たに理科・言語 (英語・国語)・総合 (心理・進学) カウンセラーなどを採用出来た。</li> <li>・中・高等部の理科専従の補助教員を配置出来た。</li> <li>・中等部・高等部専従の事務スタッフを増員。</li> <li>・中等部での提供科目を完全に IB・MYP の科目と一致させ正式認証に向けてのカリキュラムが策定出来た。</li> <li>・幼稚園部・初等部において兼任であった副校長、PYP カリキュラムコーディネーターをそれぞれ独立して配置できた。</li> <li>・IB-PYP (幼稚園部・初等部) の確認訪問のための自己評価レポートがほぼ完成し訪問のための備えが出来た。</li> <li>・コロナ感染拡大・全国学校閉鎖措置を受け、1日も休校せずにオンライン授業に移行・実施出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部+高等部指導体制の更なる充実</li> <li>・教員研修の更なる充実</li> <li>・幼・小・中・高とよりスムーズに繋がる IB 一貫校としてのカリキュラムの更なる充実</li> <li>・必要時のオンライン授業の更なる充実 (特に低学齢クラス)</li> </ul>
生徒・学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒支援の充実</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中・高等部専従の総合カウンセラーを出来た。</li> <li>・EAL(English as an Additional Language)教員を増員することが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる支援体制の充実</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習支援</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中等部で使用していた School Information System (校務システム) の ManageBac を初等部、高等部でも活用し、教員・オフィス・保護者とのコミュニケーションの充実と効率化をはかれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムのより効果的な活用と保護者利用支援</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活</li> <li>・生活指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の健康、健全生活増進</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日・米両国において看護師経験を持つバイリンガルのスクールナースが居たことでコロナ感染疑い・予防時の対応がスムーズに出来た。</li> <li>・感染症にも対応し、また学校活動のみならず家庭におけ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関との連携拡大</li> </ul>

			る怪我にも対応した24時間共済を導入出来た。	
	・生活指導	3	・生徒生活指導専従者（スクールソーシャルワーカー）の働きで問題ケースが減少している。	・家庭とのより密なコミュニケーションと連携
	・生徒会活動	2	・生徒の立候補による生徒会が中津・土佐堀両キャンパスで発足出来た	・生徒会のより自律的活動と学校の適切な支援。
保護者との連携	・保護者の教育活動参加	2	・コロナ感染の影響で学校行事が実施できないが保護者ボランティアが新生（家庭）支援や学校説明会などで学校と協力し貢献が出来る。	・更なる情報提供と呼びかけにより、より多くの保護者に学校活動に参加していただくこと。
	・保護者への情報提供	3	・オンラインであるが、幼・小・中・高それぞれに、全学保護者を対象とした年3回の「教育内容・学校展望説明会」が実施出来、PYP、MYP、DPのIB理解を含めた教育内容・学校展望を保護者と共有出来た。 ・学校ウェブサイト+Facebookへの情報（各クラス+全校）提供。 ・生徒個別オンラインポートフォリオとしてSeeSaw（幼稚部）や校務情報ソフトManageBac（小・中・高）などのITツールを活用。	オンラインミーティング・ITツールの更なる活用
地域連携	・地域コミュニティーや公立学校との連携を深める	3	・地域の小学校に外国人英語教員を派遣。 ・サタデースクール、インテンシブなどの英語プログラムのための専従の開発教員を採用し、プログラム内容の改定に取り組めた。	・地域連合会など他機関との交流を進める。 ・学校開校行事を増やすこと。
教育環境・施設	・施設・設備・備品改善と感染予防	2	・土佐堀に高等部専用のキャンパスを整備できた。これにより、IB・MYP,DP対応の理科実験室、アート・デザイン室、図書室を設置出来た。また、IBの授業形態により対応したインターナショナルスクール用の家具類を海外よ	・大阪市、全YMCAと連携し、安全でより教育活動をサポートできる施設・設備・備品の確保に努める。

			<ul style="list-style-type: none"> <li>り購入できた。</li> <li>・感染予防のため校内清掃、設備管理を抜本的に見直し、殺菌消毒作業を追加導入するなど出来た</li> <li>・スクールバス2台体制で中津・土佐堀間の生徒移動がスムーズに出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中津 PYP キャンパスのさらなる整備</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT機器・アプリケーションの充実・活用</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者データベース、学籍管理、出席管理、IBに準拠したカリキュラム構築、成績表、保護者コミュニケーション、また入学希望者対応に活用できる校務ソフト ManageBac の活用推進出来た。</li> <li>・簡易パソコン Chromebook、iPad を更に購入し、5年生以上で1人1台、他学年も通常教室で複数のラップトップ設置が進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の ManageBac の活用推進</li> </ul>
広報活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報発信方法の改善</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・卒業生による口コミを重視する。特に保護者ボランティアグループに参加している保護者が活躍している。また、学校ウェブサイトを常に改善するとともに・SNSでの発信が十分に出来、成果が上がっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校サイト、Facebook、Instagram で特にビデオをより多くアップすること。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外活動でのアピール</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染状況の中で学外広報活動は出来なかったが、逆にオンラインでの学校説明会をいつでも実施出来た。</li> <li>・大阪外国企業誘致センター (OBIC)、大阪国際経済振興センター 国際部 (IBPC 大阪) の土佐堀キャンパスへの訪問は実施出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や領事館など学校支援ネットワークの構築。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際機関・国際学校連盟などでの広報</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EARCOS や WASC、IB、JCIS、JASO との連携や会議・研修参加を通じた広報ができた。</li> <li>・全世界配布の「帰国便利帳」で帰国生の広報掲載。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携機関を更に増やしていくこと。</li> <li>・支援金募金活動を活発にし、学校の認知の浸透に役立てる。</li> </ul>